

◎市長（角光雄君） ただいまの小川議員の御質問にお答えをいたしたいというふうに思います。

総合計画の現状と問題点についての御質問であります。

本市では、将来都市像を「豊かな自然と共生する自立と循環の都市（まち）」と定め、未来に誇れるふるさる白山市を創造する総合計画を平成18年度に策定をいたしました。

以来、総合計画に基づき、市民憲章や子ども憲章の制定、白嶺小中学校の建設など感性あふれる教育施設の充実、光ファイバーによる平野部と山ろく地域との情報格差の解消、松任駅前や工業団地の整備によるにぎわいと活力の創出など、だれもが快適に住み続けることができる安全・安心で魅力あるまちづくりを進め、市民の一体感の醸成と新市の礎を築けたものと考えております。

百年に一度と言われる経済不況の中で、白山市の財政は今後ますます厳しいものと予想されますが、議会初め、市民の皆さんの御理解と御協力をいただき、それぞれの事業の優先度を見きわめ、健全財政を堅持しながら、夢と希望が持てる施策を着実に実行してまいりたいと考えておるところでございます。

次に、主要指標の目標人口の根拠についての質問であります。目標人口の設定につきましては、合併時の新市建設計画の中で、統計的手法を用いて算出したものを基礎に、総合計画においては、平成28年度を目標年次として平成17年の国勢調査人口等を勘案し、目標人口を12万5,000人と設定いたしましたところでございます。

小川議員の御指摘のように、行政が各種計画を策定する上で、自治体の人口はその基礎となるものと認識しております。したがって、総合計画策定時に比べ、経済を初め、社会情勢が目まぐるしく変化する中においては、総合計画についても人口動態や計画内容を検証・評価しながら、必要に応じ、適宜見直しを図ってまいりたいと考えております。

次に、本市の人口増加策についてでありますけれども、松任、美川、鶴来地区では、土地区画整理事業や幹線道路網の整備による都市基盤を活用した産業の創出、工業団地の造成など、雇用の拡大と地域経済の活性化に取り組んだ結果、順調に人口増加を続けております。しかしながら、白山ろく地域につきましては、合併時に比べ人口が減少し、少子高齢化が進んでいる現実を真摯に受けとめねばなりません。

白山ろく地域における定住促進策につきましては、これまで克雪・就学・住宅対策等として各種の補助制度を実施しております。白山ろくには多様な地域資源があり、それを生かした観光と交流の拠点として、交通の要衝地にある吉野工芸の里周辺整備や、白峰、一里野、鳥越、鶴来の観光拠点化を図りながら、「住んでみたい、行ってみたい」と思える魅力ある地域づくりに取り組んでまいりたいと考えておるところであります。

また、白山ろくに住みながら働く場所の確保を図るために、加賀産業開発道路沿いに新たな工業団地を計画するなど、過疎化の防止と定住促進策を図ってまいりたいと考えてお

るところであります。

さらに、新年度から農林水産省のソフト事業である「ふるさと地域力発掘支援モデル事業」を白山ろく地域が主体となって自主的に取り組んでまいりたいというふうに思っております。この事業は、地域の食文化や伝統的町並み、農山村景観、地場野菜など地域特有の資源を生かしながら、地域の元気のもとを再生し、集落の活性化を進めるものであります。市といたしましても、この白山ろく自主自立の取り組みを協力にバックアップいたしまして、議員御提案の「定住元年」という強い意気込みを持って、安心して暮らせる里山づくり、安価な宅地提供等、市の振興施策と連動させながら、定住化対策に努めてまいりたいと考えております。

また、地域振興課及び白山ろく振興室を観光推進部に組織がえすることにより、山ろくの地域振興と観光施策の一体的な推進を図ってまいりたいと考えております。

白山から日本海まで多様な魅力を有する本市であります。「住みたい、住んでよかった」と思っただけのような、総合計画に基づく市民協働による活気あふれるまちづくりを進めていきたいと考えておるところでございます。こうした面につきましては、広く市民の声も聞き、協力を求め、そしてみんなで知恵を出し合って、ふるさとづくりというものに真剣に取り組んでいく必要があるというふうに思います。

なお、総合計画の地域別構想アンケートにつきましては、建設部長より答弁させますが、地域別構想については、以後、地域の方々と意見交換をする場を設けまして、十分に市民の皆さんの御意見を取り入れた中で、これからいろいろと真剣に取り組んでいくよう努力をしていきたいというふうに思っております。